

平成28年度学校学校関係者評価 1学期

中津市立三郷小学校

学校の教育目標	豊かな心と確かな学力を身につけ、たくましく生きる山国の子どもの育成
重点目標	○基礎基本の確実な定着と活用力の育成 ○あいさつができる子の育成 ○進んで体を動かす子の育成

評価判断基準	
A	達成率90～100%
B	達成率70～89%
C	達成率60～69%
D	達成率60%未満

重点目標	達成指標	達成指標	重点的取組	取組指標	取組指標 評価	総合 評価	学校への意見及び要望
基礎基本の定着と活用力の育成	○学期ごとのまとめのテストで、以下の点数を各学年児童割合80パーセント以上にする。 ・85点以上（低） ・80点以上（中） ・75点以上（高） ○中津市学力状況調査で評定1の児童を半減する。	B	○自分の考えを持ち、伝え合い達成感の持てる授業の徹底。（教科の内容の習得・自己決定・自己存在感・共感的人間関係の面から）	○その授業で何を学ばせるのかという教材のねらいを毎時間きちんと持ち、板書（「めあて」「課題」「まとめ」）に表す。 ◇セルフチェックと隣接学年での見合い・確認をする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 先生たち全員で学力向上に取り組んでいることが分かった。 授業ではわかっているが、テストではそれほどできていないので、もう少し定着できるようにしてもらいたい。 自分の考えはあるが、多くの人の前で意見を述べることができない場合がある。 「家庭学習チェックシート」はとても良いので、今後も活用してほしい。 学校に頼るばかりの家庭もある。そのような家庭に対してどうすればよいのかが課題だと思う。
			○家庭学習の徹底・習慣化（各学年の課題に応じて）	○家庭学習チェックをもとに、未提出児童の情報交換を行う。さらに、家庭状況も含めた提出できない原因を共通理解した上で、その改善策を探る。 ◇がんばりカードや決意カード（高）の見直しをし、振り返りの場を持つ。	B		
あいさつができる子の育成	○自己評価アンケート（児童・保護者・教職員）で「三郷小の子が先に明るくあいさつをするようになってきた」と回答した割合を80%以上にする。	B	○児童同士であいさつについての評価をさせ、児童からあいさつの輪が広がる「あいさつの木」の新しい取り組みの実施。	○児童会が主体となり「あいさつの木」の取り組みを呼びかけ、クラスの反省をして毎日木の花を塗らせる。 ○問いかけに対してきちんと返事をさせる。（はい、いいえ。ありがとう。ごめんなさい。）できていない場合はその場で言い直しをさせる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者を巻き込んだあいさつの取り組みはよいと思う。 大人になると、いくら能力があってもコミュニケーションが取れず、支障が出る場合がある。子どもころからコミュニケーション能力を伸ばしてやるのが、家庭や地域等に求められている。
			○家庭と学校が連携し、大人から積極的にあいさつしたり子どもに声をかけたりすることで、あいさつ運動の推進。	OPTAと連携し、保護者によるあいさつ運動・学期に2回家庭でのあいさつ強化週間を実施する。 ◇保護者の声を集約し、取り組みの見直し・改善を行う。（懇談会などで話題にする。）	B		
			○相手の気持ちを考えた言葉遣いの習慣化。	○月に1回程度、発達段階に応じたSSTの学習を行う。 ○学級担任が帰りの会で今日の「ふわふわ言葉」をあげさせ、反省させる。 ◇担当は定期的に各クラスの様子を確認・集約する。	B		
進んで体を動かす子の育成	○体カテスト県平均を70%以上にする。 ○児童アンケートで「休み時間によく運動場や体育館で体を動かして遊んだ」と回答した割合を80%以上にする。 ○児童アンケートで「朝ごはんを毎日食べている」と回答した割合を80%以上にする。	A	○授業の始まりに学年の学習内容や発達段階に応じたサーキットトレーニングの実施。	○サーキット内容の共通理解を図り、学年の発達段階に応じた基本メニューをもとに行う。 ◇実施状況を週ごとに確認し、サーキットのための効果的な環境を整えていく。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 数多く取り組むより決まった項目を徹底して行うほうが、達成感があってよいと思う。 体力向上に向けた取り組みができていていると思う。継続してほしい。
			○自分の考えを持ち、伝え合い達成感の持てる授業の徹底。（教科の内容の習得・自己決定・自己存在感・共感的人間関係の面から）	◇担当は定期的に各クラスの様子を確認・集約する。	A		